

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
14	藤田 哲哉（13）	<p>1. 社会福祉センターから生まれたコミュニティの今後について</p> <p>令和4年6月2日、福祉保健委員会協議会において、富士市社会福祉センター事業審議会の答申内容と、社会福祉センター存廃の市の方向性及び利用者の居場所づくり等について報告されました。</p> <p>そこで、以下質問いたします。</p> <p>(1) 市の方向性の中で廃止の3施設については、施設周辺では類似事業が展開されており、当該施設で行政が継続して事業を行う必要性は低いと考えられることから、地元関係者等との協議を十分に行い、理解を得た上で廃止ととしています。ここでいう地元関係者等とは、答申内容にある施設利用者、地域住民、関係者等ということなのか伺います。</p> <p>(2) 廃止施設の利用者の居場所づくり等については、社会福祉センターは、高齢者の社会参加や仲間づくり等、「居場所」としての機能を有していたことから、廃止する施設の利用者及び地域住民に対し次の活動を促すとして、5つの提案をしています。</p> <p>「居場所」としての機能を有していたことで、アウトカムとして広見荘では、コミュニティが生み出されました。1日誰とも話をしない独居の高齢者が、ここに来れば、挨拶ができる、笑うことができる、幸せを感じることができる、生きてると実感できる。社会福祉センターとしての行政目的達成の結果、成果としてコミュニティを生み出しました。廃止によりこのコミュニティが分裂した場合、震災関連死のような状況が起きないように、私たちは生み出した責任を果たさなければなりません。そこでこれら5つの提案は、利用者の皆さんのコミュニティを維持し、生きがいを持ち続けられる提案であるとお考えか伺います。</p> <p>(3) 各提案では、参加を促す、情報提供するとありますが、高齢者の皆さんは新たな場所へ行くことや新たにグループに参加すること、また、自ら進んで仲間づくりをすることが大変苦手であります。利用者の皆さんは、孤独になること、孤立してしまうことに大変不安を積もらせています。これらの不安を払拭するためにどのような対応をお考えか伺います。</p> <p>(4) この広見荘は、災害時に福祉避難所としての機能を有していますが、今後もこのような活用を視野に入れているのか、お考えを伺います。</p> <p>2. 富士市のスポーツを支える人材育成とアスリートセカンドキャリア支援について</p> <p>近年、スポーツ庁では、プロスポーツ選手へのデュアルキャリアを勧めています。その背景として、かつては実業団中心だった日本スポーツ界も、企業スポーツからプロスポーツ</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
14	藤田 哲哉（13）	<p>へとシフトする流れが加速したことによります。実業団選手は、スポーツ以外の仕事をする時間もあり、そこで社会人としてのスキルを身につけることができましたが、プロ化が進んだことで事情が変わりました。今後は、スポーツ選手が「第2の人生」に富士市を選び、充実した人生にしてもらう仕組みづくりが必要であると考えます。</p> <p>そこで、以下質問いたします。</p> <p>(1) 就労経験がない、または就活をしたことがないスポーツ選手は、ユニバーサル就労支援センターのサポート対象として考えられるのか伺います。</p> <p>(2) アスリートのセカンドキャリア支援をする中で、企業のみならず就労するアスリート自身も社会貢献ができ、富士市のスポーツ推進に携わることができると思いますが、いかがお考えか伺います。</p> <p>3. 富士市立中央病院の機能充実について</p> <p>改善が図られてきている診察待ち時間等について、より患者の皆さんの負担を軽減するため、富士市立中央病院の施設整備について伺います。</p> <p>(1) 待ち時間をより有効に使える手段として、ゲストレシーバー（メッセージ機能付呼出しベル）の配備が期待されるようですが、設置についてのお考えを伺います。</p> <p>(2) 入院時に点滴等の処置のため、入院患者のリストバンドのバーコードを読み込む必要があるのですが、場所によってはスムーズに読み込めない場合があると伺っています。病院機能としてネットワーク環境の充実を図ることが必要不可欠と思いますが、いかがお考えか伺います。</p>	市長 及び 担当部長